

ちほの おしゃべりタイム



1秒の大切さ



オフィスPrima 代表
フリーアナウンサー
ビジネスマナー講師

とおる ちほ
透 千保

東海地方の各放送局(岐阜放送/ぎふチャン、FM Gifu、東海ラジオ、メ〜テレなど)で数多くの番組やニュースを担当。司会、ナレーションの他、名鉄電車、名古屋市営地下鉄など、公共交通機関のアナウンス放送に携わる。一方、企業・大学において、ビジネスマナー、電話応対などの研修講師を務め、人材育成に取り組んでいる。

6月10日は時の記念日。天智天皇の時代に「漏刻」という水時計が設置され、日本で初めて時を刻んだのが、西暦671年のこの日だと言われています。

江戸時代は、日の出から日没までと日没から日の出までをそれぞれ6等分して一刻と呼び、昼夜や季節によってその長さが違っていました。伸び縮みする時間の中での生活は、現在よりおおらかなものだったことでしょう。明治になって現在の「定時法」になりましたが、それまでの習慣から、人々は時間をきちんと守るという意識が希薄だったようです。そのため、1920年(大正9年)に、東京天文台(現：国立天文台)と財団法人・生活改善同盟会が、時間を守り、欧米並みに生活を合理化するように記念日を設定したそうです。日本人は世界でも時間に正確な国民として知られていますが、この日が出発点だったのですね。

放送現場では、毎日が時間との戦いです。ニュースを伝える時間は、秒単位で厳密に決められています。あらかじめストップウォッチで原稿の尺(長さ)を計り、どれくらいの時間で読めるのか下読みをします。ところが本番直前に緊急の原稿が入ることがあり、そうなると下読みした原稿とはアナウンス時間の長さも変わってきます。時間内に読み終えることができるよう、緊張しつつも、秒針の動きと自分を連動させて原稿を読むこともしばしばです。

ニュースの時間が2分30秒だとします。それはわずかな時間ですが、視聴者に役立つ情報を伝えているのであれば、1秒ごとが貴重です。大雨がいつまで続くのか、被害が出ているのか、今後の見通しはどうか。例えばそのような緊急性の高い情報を伝える時は、まさに「秒」と格闘したような気持ちになります。

私たちアナウンサーは、訓練によってそのように秒単位で時間をコントロールすることができるのですが、人間になぜそのような能力が備わっているのかは、現在でもよく分かっていないそうです。一説によると、脳の中に時計のクォーツのような発振装置があり、それによって時間を計っていると考えられているそうです。

一方で、時間の流れ方は場面によって変わるようにも思えます。ビジネスに集中していくつものタスクをこなす時、久しぶりに会った友人との楽しいおしゃべりに興じる時は、あっという間に過ぎ去るように感じます。逆に、退屈している時間は長く感じます。また、インターネットを眺めて無為に過ごした時間を後悔することもあれば、仕事や趣味で充実した時間は満足感を与えてくれることでしょう。

現代人は皆、時間に縛られ、時間に追われているようです。1日24時間が誰にも平等に与えられているとしても、その時間をどのように使うのか、どうしたら一瞬一瞬を充実して過ごすことができるのかを、今一度考えてみたいですね。時の記念日は、そのいい機会であると思いました。